

ルネサスが
双葉

- [広告](#) ビジネスを成功へとつなげるカラープリンタ。キャンペーン実施中！ -NEC
[広告](#) 特集「変化の時代の企業経営、変化に即応できるIT戦略」提供:日立製作所
[広告](#) 【マルコメ】月次決算処理が30日→5日に！運用コストも20%削減 富士通
[広告](#) 特集: 劇的に進化したTV会議システムで活発な情報交換を/日立ハイテク

[ビジネス: ネット時評\(日経デジタルコアより\) 過去記事](#)
[>> 過去記事一覧](#)

グッバイ・アメリカ(中村 伊知哉)



前略アメリカ合衆国様

いま南仏コート・ダジュールのカンヌにきています。テレビとマルチメディアの映像見本市のMILIA/MIP-TVに参加するためです。カンヌといえば、戦後フランスが芸術文化大国として復興するため映画祭を開催した地です。国の威信をかけて文化に心血を注いでいます。今回は参加をキャンセルする日本企業が目立つなど、戦時下を感じさせる催しです。

戦時中のボストンからこのコート・ダジュールにやってきたのは、テロを逃れてのことでも、あなたの傲慢さに嫌気がさしたのも、フランスの正義に心打たれてのことでもありません。たまたまMITでの仕事に一段落つけて、日本ベースの暮らしに戻ることにしたので、その戻りの道草です。

アメリカ様。あなたは覇権国です。どんなに未開の地の人でも知っています。覇権を握ればもう十分でしょうに、そうは行かず、制圧にかかるのは、気性のせいでしょうか。プロテスタントがイスラムと対決するのは本性なんでしょうか。それを見てカトリックがブツブツ言うのは仕方ないことなんでしょうか。フランスがあなたやあなたの敵とは別の正義の看板を掲げ、根性と狡猾さを見せるのもまた気性なんでしょうか。そして東洋は傍観するだけなんでしょうか。

アメリカ様。90年代、あなたはギラついていました。あなたらしくて、面白かった。マネー、リターン、エクイティ。スピード、ビジネスモデル、ソリューション。便利。安い。インターネット。それらが行き詰まって、もがき苦しむ不格好さも、愛くるしいところがありました。しかし、嫌われて、テロられて、でかい図体でケンカを始めたかすると、シャレになりません。爆撃が始まって、戦争支持は7割に達したそうですね。あなたらしい単純さですね。

アメリカ様。あなたは技術とビジネスをお持ちです。でも、美に欠けます。フランスのおじさんは、あなたのことを、エンターテイメントもビジネスでしかない、と嗤(わら)います。ハリウッドは世界を席卷するエンターテイメントですが、ハイセンスな芸術には遠いと言いたいのでしょう。それは、フレンチ・レストランでコーラを注文してしまうあなたに嫉妬しているだけなのかもしれません。

アメリカ様。あなたが90年代に確立したネット文化は、デジタル文明へと進化しつつあります。地球を覆います。それは平和を求める文明なのだと思っていました。しかし、戦場でも大活躍ですね。お望みどおりですね。宇宙から数センチの精度で映像解析された地点にピンポイントで爆弾が投下されます。地上戦ではウェアラブルコンピューターで武装した兵士がうごめいています。その模様を、世界中がブロードバンドでリアルタイムに見つめています。それぞれの怒りと、それぞれ

の悲しみにくれながら。

偉そうなことを申しました。ご容赦ください。お前はどうかんだと問われると、窮します。政治的にはあなたに絶対服従です。今回の戦争といえますか、侵略といえますか、この重要な局面でも、何のメッセージも国際舞台に呈することなく、ただあなたへの忠誠を表明しておしまいでした。

経済は元気がないし、世界に通じる価値観や美観を提示しているかと言われれば心もとない限りです。ちかごろ日本で目立つものといえば、写真メール、ロボット・ペット、あふれかえるキャラクターのフィギュア、コスプレ・・・平和ボケと言われるかもしれません。

しかし、アニメやゲームを含め、日本から発せられるそんなイメージの数々は、洗練されたくだらなさというか、無責任なポップというか、ある種のニオイを伴った社会像を結んでいます。ビジネスを生んでいくわけではないのかもしれませんが。感動を呼ぶ本格的なストーリーも生まないかもしれません。だからあなたには不可解でしょう。でも、西洋と東洋がないまぜになった、独特の浮遊感、次の息吹を感じさせるのです。分散したデジタルの時代のリアリティーを象徴しているかもしれない、と思うのです。

あなたの覇権主義は、アメリカ対その他という構図を生むかもしれません。中国が成長して、2大覇権文明が対峙し、日本はそのはざままで苦しむことになるかもしれません。どうしたらいいでしょう。アメリカ追従を続けるのでしょうか。中国にすり寄るのでしょうか。間に立って、独自の日本文明を形作ろうとするのでしょうか。私にはわかりません。

海の青と空の青です。地中海は永遠の青です。

その向こうに中東があります。バグダッドが赤く炎上しています。

私はまもなく日本に向かいます。

申し訳ありませんが、たぶん今、あなたより日本の方が面白い。

またしばしばあなたを訪ねて参りますが、せいぜいお元気で。

-筆者紹介-

中村 伊知哉(なかむら いちや)
スタンフォード日本センター研究所長

略歴

1961年生まれ、京都市出身。京都大学経済学部卒。在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターなどを務める。84年郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長を経て、通信政策局でマルチメディア政策、インターネット政策を推進。93年からパリに駐在し、95年に帰国後は官房総務課で規制緩和、省庁再編に従事。98年郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就くとともに渡米、MITメディアラボ客員教授に就任。2002年9月から現職を兼務。経済産業研究所コンサルティングフェロー、(社)音楽制作者連盟顧問、NPO「CANVAS」副理事長を兼務。著書に『インターネット、自由を我等に』(アスキー出版局)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)など。

